

- 特別史跡 -

讃岐國分寺跡

【 讃岐国分寺跡史跡公園 】

国分寺の周辺には、寺の史跡公園が広がっている。公園は、創建時の寺の境内の範囲で、とても大規模であることが実感できる。公園には、創建時の伽藍を再現した模型や、建築物の柱の跡などが展示されており、創建当時の国分寺の姿を、思い浮かべることができる。

国分寺へ参拝の際に、ぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。公園の南側には、広い駐車場があるので、車でのアクセスも可能だ。

【見どころ】

◆伽藍の復元模型

伽藍を再現した模型は、公園の北東部にある。模型は石造りで、現物の10分の1スケールで再現されている。模型を見てみると、「西中央方式」という建物類が、西半分に集中している建築様式であることがわかる。



◆築地塀

公園の北と南側の二箇所に、築地塀という伽藍における内と外を分けるための塀が復元されている。当時の築地塀は、伽藍全体を囲むような大規模なものであった。復元された物は、本来の築地塀の一部分にすぎない。



◆掘立柱建物跡

創建時の建築物には、「講堂」や「僧房」などがあるが、それらの建物の基礎となる柱が残っている。

交通アクセス



●アクセス

- 電車：JR 国分駅より徒歩 5 分
- 乗用車：①坂出市街から県道 33 号線経由で約 30 分
②高松市街から県道 11 号線経由で約 31 分
- お遍路：第 79 番「天皇寺」より徒歩で約 1 時間半

●住所

〒761-8022 香川県高松市国分寺町国分 2065

●電話番号

(0877)74-0033

●参拝時間

7:00 ~ 17:00

●年中無休

●宿坊(宿泊施設)なし

●お手洗あり

四国八十八カ所霊場会本部事務所

TEL : (0877)65-5688 FAX : (0877)56-5689
(WEB) <http://www.88shikokuhenro.jp/index.html>

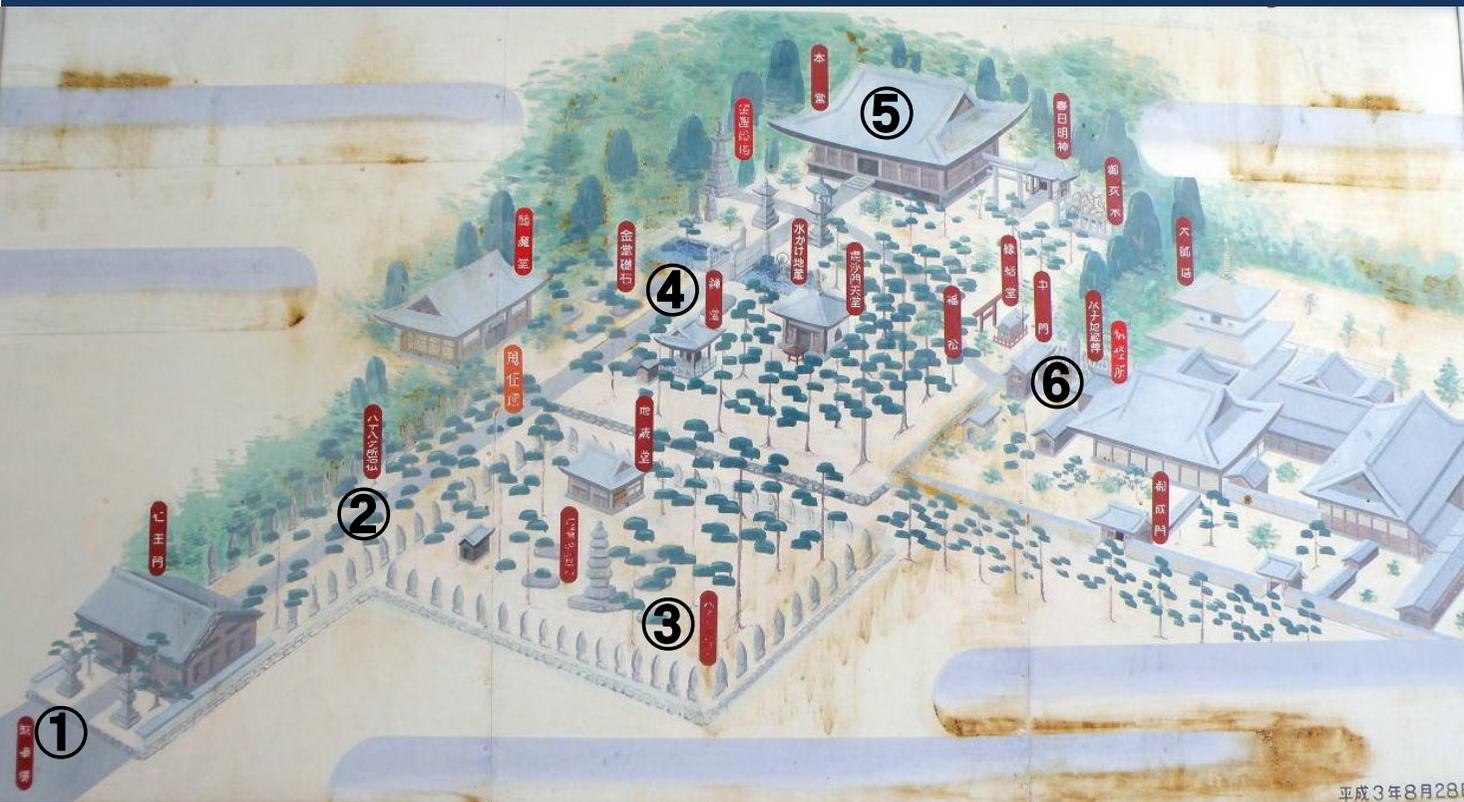


四国霊場第80番札所

讃岐國分寺

讚岐国分寺 - 境内案内図 -

国分寺の伝説



●伝説

讚岐国分寺には、少し怖い伝奇が残っている。伝奇の話は、国分寺の境内にある「鐘楼」の釣鐘にまつわるものである。

慶長16年(1609年)、高松藩主の生駒一正(いこま かずまさ)が、国分寺を訪れた際、鐘の音色に魅了され、鐘を居城へと持ち帰った。生駒氏は、鐘を朝と夕の鐘付きに使用しようと考えていた。しかし鐘が着いて以降、城や周辺の城下町などで、不可解な出来事や、悪疫などが流行するようになった。ついには、生駒氏自信も病に侵されてしまう。このような一連の現象が、鐘による「タタリ」なのではないかと判断した生駒氏は、同年に鐘を国分寺に戻したという。

●鐘楼と銅鐘

境内の中央部には、鐘楼がある。鐘楼には、上記の伝奇で登場した釣鐘が付いている。

釣鐘はとても古い物で、奈良時代に铸造された物と推測されており、昭和19年に重要文化財に指定される。大きさは約5尺(約1.5m)、口径は約90cm、重量は約三百貫(約1.2t)のスケールである。



●生駒一正

高松藩二代藩主(1600 - 1610)

生駒家の二代目の大名。所有する石高は約17万3千石にも及んだ。戦国～江戸初期にかけて活躍した人で、「関ヶ原の戦い」にも東軍として参戦した。



①仁王門

讚岐国分寺の境内への入口の役割を果たしている門。門のすぐ横にある門前松が美しい。手前には、駐車スペースがあり、4・5台の車が駐車可能。



④蓮池

本堂の一步手前にある。池には石橋が掛かっており、東西に池が分けられている。池には、鯉や亀が生息しており、夏季にはアメンボも出現する。



②参道

白石で作られた参道は、本堂へと続いている。道の両脇には、背丈の高い松並木が空高く伸びている。



⑤本堂

国の重要文化財に指定されている建造物。国分寺の創建時には「講堂」が建てられていた。鎌倉時代に、現在の「本堂」が創建された。



③七重塔跡

創建時の七重塔が建てられた所に、七重塔の礎石が残っている。礎石の中心部には、七重塔をモチーフにした石塔が現存。(鎌倉時代の物)



⑥大師堂

大師堂の塔は、二重塔。堂の手前に「千体水子地蔵」が並んでいる。堂内は、仏具やお土産の販売所がある。

